

連載

- 10 世界のキーパーソン
- 11 国内人情情報
- 27 Book Reviewing Globe
- 40 テイレスシアスの食卓―河井健司
- 42 大往生考
- 51 西風
- 59 交差点―読者の声・編集者の声



たばこ企業と財務省、さらに東大医学部を中心とする医師が結託。国民の健康被害を隠蔽し、喫煙擁護を展開。先進国で類がない、カネと利権まみれの公益財団が日本に存在することを、国民は知るべきだ。(110頁)

- 98 社会・文化●情報カプセル
- 100 **サイバー被害で世界標準の「対処法」**
■注目される身代金「交渉請負会社」
- 102 在日中国人社会で進む「内紛と分断」―強まる本国の監視と支配
- 104 日本囲碁界の遠い「復権」―「力」世界戦優勝でも晴れぬ視界
- 106 **がん「早期診断技術」の最前線**
■世界の革新から置き去りの日本
- 108 アラン・ドロンとは何者だったか―「一枚目俳優を超えた」別の顔
- 110 **喫煙科学研究財団**―健康被害「促進」JTの魔窟

- 80 金融の世紀―黒木亮
- 88 皇室の風―岩井克己
- 90 日本の科学アラカルト
- 92 新・大学評判記
- 94 本に遇う―河谷史夫
- 96 めんな千一夜―石井妙子
- 114 マスコミ業界ばなし

3 連載「巻頭インタビュー」マイケル・グリーン―石破は日米同盟を荒らすな

特別レポート

米国第一の暗い世界

「バイデン後」孤立主義が招く混沌

- 6 西欧左翼とイスラム過激派の「野合」―政治と治安の新たな不安要因
- 14 ベネズエラ発「難民キャンプ」の猛威―米州各国に拡散する「凶悪組織」
- 16 **イラン空爆が招く「次の報復」**
■ホルムズ海峡封鎖はあるか
- 18 WORLD●情報カプセル
- 22 **北朝鮮「ロシア派兵」で陥る泥沼**
■戦争長期化と「朝露蜜月」の災い
- 24 **習近平の中国「衰退」の本質**
■経済高成長の日はもう来ない
- 28 イスラエルの非情なる「暗殺」―中東が震撼するモサドの流儀
- 30 **ウクライナを蝕む「宗教戦争」**
■プーチンが目指す「精神の占領」
- 32 韓国「ノーベル文学賞」狂喜の実像―作家・韓江に渦巻く毀誉褒貶
- 34 頼清徳「対中方針」の巧みな変身―習近平を悩ます「新」国論
- 36 中国先端産業の躍進は「虚構」―AI・半導体「国産化」の限界
- 38 連載「現代史の言霊」十一月の誤解―ベルリンの壁崩壊②(一九八九年)

米次期政権がいずれであれ、米国の世界からの撤退は進む。力の空洞には中露陣営が伸長し、国際秩序は一段と荒れる事態に。米同盟国の負担は重くなる一方だが、それが新標準。日本も耐えるしかない。(6頁)



自滅の大敗。少数与党政権に転落で政策推進力は極度に低下。延命は日本の不幸だ。打開のためには連立の拡大が必要だが、それには「大が小に譲る」交渉しかない。石破が首を差し出す相手は誰なのか。(48頁)

- 44 政治●情報カプセル
- 46 **有頂天・玉木が翻弄する政局**
■消えない「天連立」の幻影
- 48 **石破ゾンビ政権の余命**
■いつ誰に後継を託すのか
- 52 連載「政界スキャン」覚悟なき野田佳彦が逃した「大金屋」
- 54 **野党連立政権「頓挫」の真相**
■「小沢マジック」を拒んだ者たち
- 56 政治混迷で「官僚主導政治」の復活―自民党衰退にほくそ笑む霞が関
- 58 連載「罪深きはこの官僚」中井清人 厚労省監査審査管理課長―「危ないワクチン承認の首謀者」

- 60 インド金融「預金枯渇」の崖っぷち―「モディ3.0」を襲う投資バブル
- 62 スズキ「インド」本足経営が加速―他社より「生き残り」の勝算あり
- 64 **石破惨敗でどん詰まる「原子力政策」**
■待ったなし「原発廃棄物」の新難問
- 67 連載「クローズアップ」森田敏夫 日本証券業協会会長―野村證券「社長時代の犯罪」が発覚
- 68 魅力増す「防衛関連株」の先行き―暗い世界情勢が追い風に
- 70 最凶ファンド「3D」の正体―標的企業が震える「過激手法」
- 72 **セブン&アイ「買収劇」が暴いた真実**
■「コンビニ劣化」井阪体制の怠慢
- 74 経済●情報カプセル
- 78 連載「地方金融の研究」フィデアHD(東北)―「万年赤字」の限界地銀「集落」
- 82 田辺三菱製薬に迫りくる「終焉」―投げ売り「解体」の末路
- 84 **SBI「拡大路線」が急失速**
■北尾「肝煎り事業」を覆う暗雲
- 86 **川崎重工「不正体質」は治らぬ**
■隠蔽二十年「全社的犯罪」の痼疾

好調のはずのネット証券は、金融商品仲介業者との契約を大量解約との噂。鳴り物入りの半導体事業も「空振り」が表面化した。「第4のメガバンク」構想の威勢の良さもどこへやら。変調ぶりが激しい。(84頁)

